

# American Rock Lyric Landscape



—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジヨージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第15回

## クリーデンス・ クリアウォーター・リヴァイヴァル 「ローダイ」

寂れたデルタの街に淀む切なさ



Creedence Clearwater  
Revival  
"Green River"  
Fantasy ⓄF8393 [1969] →フ  
タナジー (ユニバーサル)  
©UCC04058

彼らの音楽はシンプルなロックだった。CCRはサンフランシスコから橋を渡ったところにあるエル・セリート出身で、そこはサンフランシスコとはまるで違うワーキング・クラスの世界だったかもしれない。スワンプ、ロカビリー、R & Bやカントリーから影響を受けたバンドだ。

アルバムもすばらしかったが、彼らの強みはシングルで、リリースするたびにヒットした。歌詞はアメリカのイメージをうまく描いていた。社会的、文化的なことがテーマだ。ジョン・フォガーティの詩は、当時のアメリカの若者がアンテナを張っていた話題を取り上げていた。ちなみに彼らの曲「プラウド・メアリー」はミシシッピ川の話、「フォーチュネイト・サン」は反戦の歌だ。

彼らの活動はたった4年間だったが、アメリカの歴史に残る超メジャーなロック・バンドだ。今回選んだ「ローダイ (Lodi)」は、カリフォルニア・デルタ地区にある街の名前。何もなくて寂しい、時代が通り過ぎてしまったような閑散とした街だ。この曲はあの南部のソングライター、ダン・ペーンもカヴァーしている。ダンもこの曲に、

・ソングが好きな俺には最高のライヴだった。一つだけ残念だったのは、日本に来た時はメンバーが4人ではなくて、3人になっていたことだ。リーダーのジョン・フォガーティの兄貴のトムが既にやめていたんだ。

彼らは1968年にデビューした。出てきた当時、サンフランシスコではサイケデリックなジャンルのバンドが多かったが、

今回はアメリカのルーツ・ロック・バンドの大御所、CCRの曲を紹介しよう。72年2月、俺が初めて日本で観たアメリカのバンドだ。場所は日本武道館。ジョン・フォガーティは期待通りに白いカウボーイ・ハット姿で現われた。日本ではさながらカントリー・バンドに見える出で立ちだが、それこそが、アメリカ人らしさだった。すでに彼らは日本でも売っていたし、ポップ

感じるところがあったのだろう。

Just about a year ago  
I set out on the road  
Seekin' my fame and fortune  
Lookin' for a pot of gold  
Things got bad, and things got worse  
I guess you will know the tune  
Oh! Lord, stuck in Lodi again

この曲の主人公は、小ぢいバーヤクラブで演奏しながら旅をするニュージシヤンだ。旅に出たからもう1年ほどが経つ。I set out on the roadは、旅に出たという意味で、探し求めているのは名声と財産。'pot of gold' = ユールドが入っている鉢は、名声と財産を指しているんだ。'pot of gold'は英語ではよく使う言葉で、名声と財産は虹が地面につくところにあるという伝説がある。マーシャル・タッカー・バンドの曲'Searching For A Rainbow'も、そのことを歌っている。彼は成功したいと願っているんだ。しかし運命はそうはいかない。5行目で、'Things got bad, and things got worse'と歌っているように、想像以

上に何もかもが悪くなり、さらに状況は悪化していく。I guess you will know the tune = その曲を知っているだろう、というの、この状況、みんなわかるだろう？と言っているんだ。もうどうしようもなくなつて、神に助けを求めている。オー、ロード。またローダイにはまっしてしまっつてしまっつたことを嘆いている。

Rode in on the Grehound  
I'll be walking out if I go  
I was just passing through  
Must be seven months or more  
Ran out of time and money  
Looks like they took my friends  
Oh! Lord, I'm stuck in Lodi again

彼はグレイハウンドという会社の長距離バスに乗ってきた。グレイハウンドは犬ではないよ(笑)。ローダイに来たときはまだバス代が手元にあった。しかし今はもう手持ちがなく、街を出るとなつたら歩くしかない。I was just passing through = ローダイは通り過ぎるはずの街だった。でも

彼はここでスタック(立往生)してしまっつたんだ。もう7か月あね。Ran out of time and money = これは、金も時間もなつという意味。英語では、よく時間と金を並べる。金がなくなるのはわかると思うけど、時間がなくなるといふのは、もうこんなところにいる余裕がないことを表わしている。Looks like they took my friends' = 金がなくなると友達もなくなつてしまっつ

The man from the magazine said I was  
on my way  
Somewhere I lost connections  
Ran out of songs to play  
I came into town, a one night stand  
Looks like my plans fell through  
Oh! Lord, stuck in Lodi again

'The man from the magazine' = 雑誌社の男は、俺には行くべきところがあると云つてた。この男は音楽雑誌の人間だろう。君はもうそろそろ成功するといわれたのかもしれない。'said I was on my way' = この'on my way'は、すでに成功への道は敷かれているという意味。しかしこつて

その男から連絡がこなくなってしまう。  
‘lost connections’は電話だけでなく、つ  
ながり自体を指している。‘Ran out of  
songs to play’は、もう歌う曲もなくなっ  
たということだが、自分がやることさえな  
くなつたという意味でもある。

次の行の‘a one night stand’は、一晚  
だけのライヴのブッキング。一晚演奏した  
ら、次の朝には街を出るはずだった。昔の  
ミュージシャンはライヴをやつたら、次の  
ライヴが他の街でブッキングされるまで、  
前の街で泊まっていた。しかし彼は次のブ  
ッキングもなくなつてしまったのだらう。  
‘my plans fell through’。これは英語ら  
しに言い回しで、予定は床の穴に落ちて行  
つたようになつたというんだ。最後に  
もう一度、オー、ロード、またロードに  
はまつてしまつたと繰り返す。

Mmmm...  
If I only had a dollar For every song  
I've sung  
And every time I've had to play  
While people sat there drunk  
You know, I'd catch the next train



back to where I live  
Oh! Lord, I'm stuck in Lodi again  
Oh! Lord, I'm stuck in Lodi again

金が底を尽きて、どうしようもなくなつ  
てきた彼は、さまざまなことを考える。酔  
っぱらった客の前で歌っていても、もし一  
曲につき1ドルもらっていたら、次の列車  
を捕まえて、自分の家に帰るよと言ってい  
る。この気持ちわかるだろうか？。

実際にロードアイに住む人々はCCRのこ  
の曲を聴き、なぜロードアイをそんなふう  
に抜うのかと怒つたものだ。ロードアイはカリ  
フォルニア・デルタというエリアにある街  
だ。昔は鉄道が盛んで、人々の行き来にも  
活気があつた。しかし次第に人は少なくな  
り、今では何にもないところになつた。ロ  
ードアイの隣のストロクトンは、2011  
年に発売された『フォールブス・マガジン』で  
アメリカで一番惨めな街だと発表されたぐ  
らいだ。犯罪が多くて、教育レベルが低  
く、仕事もなく、土地の値段も安いと評価  
された。そしてアメリカで一番、借金を返  
せなくて、家を取られてしまう率が高い、  
そんな哀しい評価を下されてしまつた街だ。

デルタは河口付近に見られる地形で、枝  
分かれた2本以上の河川と海で囲まれた  
三角形に近い形をしている。デルタ地帯と  
呼ばれ、日本語では三角州という。アメリ  
カ南部のルイジアナ・デルタは有名だが、  
なぜかカリフォルニア・デルタはそれほど  
知られていない。1849年のゴールド・  
ラッシュの時にたくさんの人々がパドル船  
（外輪船）でサンフランシスコからこのデ  
ルタまで川を上がってきた。そこから金を  
掘りに山へ入つていったんだ。最近ではデル  
タの一部は、ジェットスキーやヨット、釣  
りができるようなレジャー・スポットにな  
つているが、はずれにあるロードアイは違  
う。一時はいい畑もあつたが、今は寂しい場所  
だ。以前は俺もデルタの寂れたゴーストタ  
ウンを見るために、ヨットや車で遊びに行  
つていた。まるで映画のセットのようで、  
俺はロック（Locke）という西部劇風のチ  
ャイナタウンが特に好きだつた。

このデルタには忘れられない話がある。  
昔、俺が通つていた車の学校の日系人の先  
生が、プロ用のツールボックス（工具箱）  
を買いに行こうと、カリフォルニア・デル  
タの奥にあるリオヴィスタという街に連れ

ていつてくれたときのことだ。車で走るこ  
と数時間。なぜわざわざ長い時間をかけて  
ツールボックスを買いに行くのか不思議だ  
つたが、それにはわけがあつた。日系人経  
営者の大きな倉庫で買い物をした帰り、先  
生がちょっとしたデルタの旅に連れて行つ  
てくれた。

デルタにはもともと中国人と日本人がた  
くさん住んでいた。彼もそこで幼少時を過  
ごしたという。俺を川沿いにある古い3階  
建てぐらいの建物に連れて行くと、彼は急  
に静かになつて涙をこぼし始めた。ちよう  
どそこに住んでいたときに第二次世界大戦  
が始まり、子供だった彼は家族と一緒にバ  
スに乗せられて、遠い砂漠にあるキャンプ  
に入れられてしまつたという。何も用意す  
る時間がなくて、手で持てるだけのものを  
持つて、家から追い出された。周りの日本  
人も、すべてキャンプに入れられた。家も  
土地も畑も残して。戦争が  
終わつても、ほとんどの日  
系人はこの土地には戻らな  
かつたという。彼はそんな  
説明をしたあと、デルタの  
街を回つて俺に見せてくれ



ジョージ・カックル /  
GEORGE COCKLE  
ラジオ・パーソナリティ。  
1956年、鎌倉生まれ。  
18歳で新宿2丁目のロッ  
ク・バー<開拓地>で、  
音楽の世界にのめり込  
む。ハワイアンなどの  
CDをプロデュースする傍  
ら、インターFMでは音楽  
番組「レイジーサンデー」  
のパーソナリティをつと  
め、音楽通ぶりを披露。  
さらにサーフ・イヴェントな  
どのMCでも活躍。  
http://whatsupmusic  
inc.com

た。いくつかの街はゴーストタウンになつ  
ていた。ワルナット・グロブという街で  
は、昔のギャンブルホールや売春宿がその  
まま残り、物哀しさが漂つていた。  
この曲は実はミュージシャンが人生に立  
ち止まつてしまつたことを歌っているわけ  
ではない。すべての人の人生に当てはまる  
ことを歌っているのだと思う。自分には果  
たして先があるのだろうか、もしかしたら  
永遠に今の状態が続くのでは、と考え込ん  
でしまう時期は誰にでもある。俺もスタッ  
クしてしまうんじゃないかと思うことがあ  
る。日系の先生が戦争が終わつてもデルタ  
に帰らなかつたのは、前に進みたいとい  
う気持ちからだつたという。ロードアイは、そ  
んなふうな人をスタックさせてしまうよう  
に思わせる街だ。この曲はそんなさまざ  
まな哀しみを背負つた街をテーマにした切  
な歌なんだ。